

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1174200590
法人名	社会福祉法人 希望の里
事業所名	グループホームいこいの郷
所在地	〒367-0117 埼玉県児玉郡美里町白石2321-2 (電話) 0495-76-5800

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月4日

## 【情報提供票より】(平成21年1月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年8月10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.1人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造ツーバイフォー造り	
	1階建ての1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日あたり 1,000円		

### (4) 利用者の概要(1月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 63 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、丘陵地にあつて周囲の眺望がよく、手入れが行き届いた庭園に囲まれた良好な環境にある。また、広大な敷地内に同一法人が経営する特別養護老人ホーム、当ホームを含む3か所のグループホーム及びゲストハウスがあり、行事の共同開催をはじめ、各施設の機能の連携を図つて利用者の生活を支援している。和風を基調にしたホームの建物にはりハビリ体操や行事等に使用するスペースが設備され、四季折々の生花や利用者の作品が程よく飾られ、美味しく調理された食事が提供されるなど利用者が楽しめる配慮が行き届いている。本年度は法人で掲げた「早期発見・即対応」のスローガンのもと、利用者一人ひとりの状態を理解し、望まれる生活の実現に取り組んでおり、利用者は明るく穏やかに過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、市町村担当者との連携、および他の法人が経営する同業者との交流促進であったが、前者にあつては改善が進み、後者にあつても取り組みを始めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回も前回の自己評価同様、全職員が評価の意義とねらいを承知し、職員参加の下に業務を振り返りながら評価を行った。また、改善を期待された項目については全員で話し合い、改善への工夫や努力をしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2か月ごとに同一法人内のグループホームと合同で開催されている。出席者は各ホームの責任者、利用者および家族、地域包括支援センター職員と地域の代表者であり、会議では運営状況の報告や説明、質問・意見交換が活発に行われ、サービス向上に活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の生活状況を家族の面会時、あるいは毎月の利用料金通知の際に手紙、写真、「いこいの郷だより」などを同封して報告し、体調に変化があつた時はそのつど電話連絡している。これらを通じて、また、常に意見や苦情を出しやすいように「意見箱」を設置し、面会時や運営推進会議等の機会に意見や提案を出してもらうように心掛けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事には積極的に参加し、また小学校の運動会の見学や中学生の社会体験のホーム受け入れ、あるいは花火大会にホームを開放して地域住民の利便を図るなど、地元との連携を密接にしている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての理念を基に、当ホームとして全員がいつも同じ気持ちでまごころを込め、利用者一人ひとりの立場に立って支援していくことを目指して独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げ、ミーティング時に理念の再確認を行うようにしているほか、日々の業務において理念を意識し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は地域の一員として地域の自治会に加入し、小学校の運動会見学や中学生の社会体験学習の受け入れ、あるいは地域の文化祭に作品を出展したり、清掃活動へも参加している。また、8月の花火大会には見物客にホームを開放するなど、地元との交流がよく行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員によく説明し、職員参加のもとに自己評価を行っている。また、外部評価で改善を期待された事項については職員とよく話し合い、改善に取り組んで成果を上げてきている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月ごとに、同一法人内の各グループホーム合同で開催されている。会議には、各ホームの責任者、利用者及び家族、地域代表者に昨年4月から地域包括支援センター職員も加わり、運営状況の説明や報告、質問及び意見交換が活発になされ、適切に記録されている。また、会議での意見・提案等はサービス向上に活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者には事業所の機関紙「いこいの郷だより」を持参して運営状況を説明したり、また、電話等でも書類作成上の相談をしたりしながらサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の暮らしぶりを伝えたり、毎月の利用料金通知書に手紙や写真と機関紙を同封して克明に伝え、利用者の体調に変化が見られた時はそのつど電話で連絡し、相談している。また、小遣いを預かっている利用者にとっては、内容を「小遣帳」に記録し、家族の確認印を受けている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、苦情に関する窓口の案内を掲示しているほか、家族の面会時には面談して意見や要望を伺い、コミュニケーションを密接にして苦情等の未然防止と発生した場合の早期解決を図っている。また、意見や要望等については職員間で共有し、サービスの改善に役立てている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限にとどめ、馴染みの職員が支援するように配慮している。やむを得ず異動する場合は、利用者へのダメージを防ぐため、目立たないように異動しており、その後は慣れた職員が対応して徐々に新しい職員が馴染むように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修委員会を設けて、年間の内部及び外部の研修計画を立て、さらに職員の希望を取り入れながら段階に応じた研修を行っている。また、研修結果についてはミーティングなどの機会に報告し、資料はファイルして職員が供覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームにあっては相互訪問や勉強会などがよくなされている。今年度は管理者が他の法人が運営するグループホームへ見学に赴き、サービス向上に役立てる努力をしている。		グループホームにおけるサービスの方法は多様であり、他の法人のグループホームを相互訪問したり、研修の機会を持つこと等により、サービスの方法やさらなる質の向上が期待される。管理者のほか職員にも交流する機会を持つようにして、サービスの一層の向上に努められることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者、家族には何回も見学に来てもらい、他の利用者や職員、ホームの雰囲気などによく馴染んでからサービスを開始するようにしている。また、入居後は頻りに家族に来てもらい、一緒に外出もするなど徐々に馴染んでいけるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者を支援する側に立つだけでなく、時には利用者の子どもや孫のように家族同様の接し方をしたり、また、利用者が体験してきたこと、培ってきた野菜づくりや漬物の方法、和裁の技法などを学ぶこともあり、協働しながら和やかに支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者から希望を聞いているほか、利用者の日常の行動や表情からも思いや意向を把握し、家族からの要望も聞いている。これらはケース記録に記載しておき、本人の視点に立ったサービスに役立つように配慮している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の希望のほか、家族から生活歴や趣味等を聞き、また、日々職員がかかわる中から得られた結果による意見、アイデアなども参考にして、それらを反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3か月ごとにモニタリングを行い、変化が認められなければ所定の期間で見直しを行っている。変化が見られた時、または毎月の採血検査や年1回の検診結果等で変化が認められた場合は、期間に関わらず見直しをしている。また、見直しに当たってはスタッフ間で話し合い、意見やアイデアを取り入れて新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が付き添えない場合の通院や送迎の支援、買い物や花見など状況に合わせて臨機応変に柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週2回、協力医療機関の送迎バスがあり、このバスを利用して受診の支援をしている。また、本人や家族が別の医療機関を希望している場合は、家族の協力のもとに診療を受けられるようにして、常に適切な医療を受けられる体制をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた場合は、早い段階から利用者及び家族の希望に応じられるように職員間で話し合い共有している。また、家族の希望があれば同一法人内で看護師がいる特別養護老人ホームへ移る対応もしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が利用者一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーを損なわないように言葉かけや対応に注意しながら支援をしている。また、記録等の個人情報の取り扱いについては細心の注意を払い、利用者に関わる書類は施錠できる書庫に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりや職員の都合を優先することなく、利用者一人ひとりのペースを尊重し、その日の体調や状況、希望にそって柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームは栄養士による献立、食材の一括購入など合理化しているが、食材調達によく留意し、利用者の好みもとり入れて美味しい食事を提供するように努力している。利用者は力量に応じてできることを手伝い、楽しい食事風景が見られる。また、外食や行事食も加え、変化を持たせる工夫もしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、予定した日以外でも希望があれば入浴することが可能である。また、身体状況からホームでの入浴が容易でない方は、特別養護老人ホームの特浴利用をしており、一人ひとりの希望や状況に合わせた支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族からの情報や利用者との日常の会話、行動などから生活歴や得意なことを把握し、その人に合った野菜の下拵え、洗濯物たたみ、草むしり、あるいは行事への参加など日々の生活を楽しみ、気晴らしになるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮しながら日常的に散歩を行い、そのほかに野菜の収穫、外食、買い物、花見など多様な機会を作って戸外に出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけることはしていない。職員が一人のときは外部からの侵入者と利用者の一人歩きを防ぐため、家族の了解のもとに鍵をかけることがある。なお、外出願望が強い方には職員が付き添い、隣接の施設を訪問して気分転換を図るなど柔軟に対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て消火、通報、避難等の訓練を実施し、法人の敷地内にある施設と近隣住民の方々には緊急時の応援を依頼している。また、緊急連絡網や消火体制、消火器の配置などの備えも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスやカロリーに配慮した献立を作成し、利用者一人ひとりに合った食事が提供されている。また、摂取した食事量については水分量とともにチェックしており、体調不良があるときは詳細に記録して対応を検討し、全職員がこの情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は共通の居間に接続しており、調理の音、料理の匂いなど生活感がみなぎっている。居間や天窓を設けた廊下には利用者の作品があり、また、季節の花が活かされているほか、手すりや目印が施され、利用者が安心して居心地よく暮らせる配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は横幅があってゆったりとした感じがあり、利用者は使い慣れた、また、好みの箆笥や家具、本人にとって大切な品々を持ち込んで居心地よく過ごせる配慮がなされている。		